

本機は通常のダミーロードとして御使用の他に、測定機器接続用の端子がついています。送信機調整時の擬似負荷としてはもちろん、測定用端子として

① 高周波検出端子(D.OUT)

② 直流検出端子(R.OUT)

を装備しているのが特徴です。

無線送信機及びその他の電力増巾機器の調整、試験などを行う時、不要な電波(電力)を外に出す事なくあらゆる調整試験に完全に対応出来る装置です。又入力端子と抵抗体冷却槽とは、当社開発のヒートシンクにより、インピーダンスを乱す事なく完全に断熱されているため、接続ケーブルは耐熱ケーブルを使う必要がなく、通常と同軸ケーブルを使用できるのも大きな特徴の一つです。

性能・特徴

① 今までにないワイドな使用周波数

② 大電力(1.2KW)まで測定出来る

③ 油冷式でありながらVSWR1.3以内と高性能である

④ KW測定時でも通常と同軸ケーブルでOK

⑤ 二重安全装置付

⑥ 高周波検出端子、直流検出端子付

⑦ N型接栓使用

規格

周波数範囲：DC～500MHz

入力電力最大：1.2KW

インピーダンス：50Ω

電圧定在波比：1.3以内

測定端子：A.高周波検出端子

B.直流検出端子

入力端子：N接栓

寸法：140×190×295mm

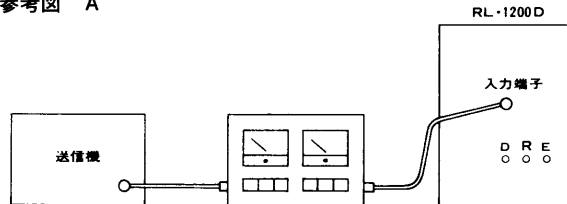
使用方法

- ① DCコード赤黒を電源に接続しCHECK SWを押してランプが点灯するかTestして下さい。
(電源はDC12V(10～15V)を接続して下さい)
- ② 送信機の空中線出力接栓と本機の接栓を接続し御使用下さい。使用ケーブルは出来るだけ良質の5D2V以上の太さのものを使って下さい。
- ③ 測定中にオイルタンク内部温度が60℃を過ぎた時は表示ランプが点灯します。その時はすみやかに測定を中止し表示ランプが消えたら再測定出来ます。温度が下がる迄待って下さい。
- ④ 高周波測定端子(D.OUT)にはダミー本体入力の一部が出力されています。Fカウンター、オシロスコープ、モニタースコープなどを接続出来ます。
- ⑤ 直流測定端子(R.OUT)に直流電流計を接続すれば終端形電力計(相対値)として使用出来ます。
- ⑥ 高周波測定端子及直流測定端子は、必要に応じて色々な用途に御利用下さい。

注意事項

- ① RL-1200Dは出来るだけ水平の状態で使用して下さい。
- ② 800W以上の入力が入った時は(温度上昇により表示ランプが点灯しますが)連続使用を一応3分間迄として下さい。
- ④ VHF～UHFに於いては、ケーブルと接栓との工作が悪いと大きな反射が生じ指示に大きな誤差を生じることが有り注意を要します。
- ④ 送信機と本機との接続接栓は完全に奥迄差込む様にしっかりとして下さい。

参考図 A



(注) CM計の進行波メーターが正確に終端型ワットメーターとなる

■本機は無線技士等の無線従事者が、その資格により責任をもって使用する機器です。また改良等のため、予告なく仕様を変更することがあります。